

城山エコミュージアム通信

令和2年(2020)1.15 第37号

エコミュージアムとは、エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

アーチの美しい親子小倉橋



木製の小倉橋



小倉橋

～2020年夏、小倉橋に新たな歴史が刻まれる～



親子橋 小倉橋(手前) 新小倉橋(奥)

江戸時代、現在の小倉橋付近には渡船場「小倉の渡し」がありました。渡しは大山参詣のルートの一つでもあり、相模川を渡る人びとで賑わっていました。明治に入っても、渡しは高座郡、津久井郡から八王子を結ぶ主幹交通の要として重要な役割を担っていましたが、公共交通としての渡しの脆弱性は、出水期の川留めでしばしば顕在化されました。

大正15年、湘南村は渡しの交通・物資輸送の増大を受けて沿道各村と共に橋梁架設のための補助金を受けて昭和2年1月完成しましたが、木造の橋は増水により数回の流失被害を受けました。住民らが待ち望んだ洪水でも流されない橋は、昭和13年7月の県の直営事業として現実のものとなり、現在の小倉橋(鉄筋コンクリート、橋長176.6m 橋幅4.5m 連続アーチ橋)が完成しました。橋の完成時の住民の喜びは大変なものでし

認定され、さらに「かながわの景勝50選」「相模川八景」「かながわの橋100選」にも選ばれ、平成27年には市登録有形文化財「建造物」に登録されました。

小倉橋は道幅が狭く、交通渋滞がしばしば発生していましたが圏央道の開通に合わせて「新小倉橋」(鉄筋コンクリートアーチ橋、橋長410m 橋幅22m)の建設が計画されました。

小倉橋との調和を考慮して、小倉橋の連続アーチ状の1連と相似形の1径間アーチ橋となりました。架設は最新のピロン工法が用いられ、平成16年3月に近代的な橋が完成しました。相模川の流れと崖の緑の屏風が親子橋の幾何学的な構造美を際



※参考資料

- ・城山町史6・7 通史編
- ・久保沢のむかし昔
- ・城山地区自治会報
- ・かながわ土木のはなし



今回のトピック

- ・ 特集記事 (小倉橋)
- ・ 城山探訪 (城山ダム)
- ・ 城山検定
- ・ 学習会案内

- ・ インフォメーション 城山エコミュージアムのつどい
- ・ 活動報告 : エコミュージアムツアー 城山かたくり学級
学びの収穫祭

活動レポート

令和元年度 城山エコミュージアムツアー



葉山島の歴史と自然 ～湘南村と呼ばれた昔を探して～

令和元年10月6日(日)開催・・城山総合事務所～葉山島地区

～コース紹介～

- ①城山公民館 出発
- ②八王子千人隊の門



八王子千人隊最後の千人頭の一人、志村家の門

- ③新小倉橋からの眺



新小倉橋と小倉橋



渡船の様子
昭和38年まで行っていた



⑩落花生の収穫祭



葉山島について自治会長からお話を聞く

- ④小倉諏訪神社



樹齢600年といわれるご神木のスダジイが茂る。

- ⑤葉山島諏訪神社



葉山島一円の氏神として、明治6年に村社となりました

- ⑥蓮葉寺(れんよう)



明治時代の代34世住職斎藤法如(さいとうほうにょ)は東林寺教校、清水河原開田事業など、教育と地域の発展に絶大な力を発揮しました。(法如像と後ろは本堂)

- ⑪開拓記念碑



～湘南村の名前の由来～

明治22年の町村制の施工で小倉村、葉山島村が合併し湘南村が誕生しました。江戸の文人たちが相模川を中国の湘江になぞらえていたこと、合併した2つの村が相模川の南にあることから当時の連合戸長であった馬場健二氏の提案で湘南村と名付けられました。

- ⑦姥石(うばいし)



山姥の親指の跡が残る大岩

- ⑧東林寺(とうりんじ)



知ってナットク!

しろやま 城山検定 問題



ラッカセイは、夏に黄色の花を咲かせるマメ科の植物です。漢字で書くと「落花生」ですが、実はどこに出来るのでしょうか?

- A. 花が終わると、結実し、その豆はサヤごと地面に落下する。
- B. 花が終わると、子房の茎が伸び、土にもぐり(土の中に)実ができる。

「城山かたくり学級ガイド」

開催日：令和元年9月19日(木)

城山かたくり学級の皆さんのガイドを行いました。城山公民館から川尻八幡宮、金刀比羅宮参道に入り小松城跡、宝泉寺、小野谷戸と小松地区を2時間ほど歩きました。「初めて歩く道があり、より深く城山を知ることができました。」等々、好天にも恵まれて参加者29名の皆さんは満足されたようでした。

(金子 直美)

*写真は宝泉寺。境内にある石造物について説明。



「学びの収穫祭に参加」

開催日：令和元年11月16、17日(土、日)

相模原市立博物館主催の学びの収穫祭が博物館にて開催されました。

城山エコミュージアム委員会では、10月6日に開催したツアーのパネル展示をしました。

テーマの葉山島地域について、パネルを見て興味を持たれた方から、今度機会を作り葉山島に行ってみたいなどの感想がありました。

(田畑 房枝)



「定例会にて・学習会の記録」

05/15 地球温暖化と森林の役割	*今後の予定
06/12 カブトムシの生息調査	02/12 自然に関わる話から
07/03 鳥居について	03/04 サクラあれこれ
08/07 葉山島の事前に学習	
09/04 腸内細菌の話	
10/02 荒地でも育つ落花生の秘密	
11/06 我が家の植物観察	
12/06 時代をつなぐ改元・令和	
01/08 温泉坂に関する話	



INFORMATION

城山エコミュージアムのつどい



日時 令和2年2月16日(日)13:30~16:00(受付:13:00~)

会場 城山総合事務所2階 B会議室(旧城山公民館2階大会議室)

内容 発表 活動紹介・事例紹介「葉山島の歴史と自然」ガイドツアー

講演 神になった植物たち ~ 人の暮らしを支える植物 ~

講師 東京都多摩教育事務所 富田 広 氏

定員 60名 先着順 当日会場にお越しください。(参加費無料)

主催 城山公民館 主管 城山エコミュージアム委員会

問い合わせ先 城山公民館 Tel 042-783-8194

城山検定 解説

答え 正解は B (土の中)

ラッカセイ拾いとかラッカセイつみとは言わず、ラッカセイ堀と言います。

植物なのに、自分で土の中に潜っていくって不思議ですね。(多羽田 啓子)



城山探訪

城山ダム



放流中の城山ダム

神奈川県では、相模川河水統制事業として昭和22年(1947年)に相模ダムを建設しました。

昭和30年代に入り、急増する水需要への対応と洪水調節を目的として、相模川総合開発事業に着手し、昭和40年に基幹施設である城山ダムが建設されました。

城山ダムは、高さ75mの重力式コンクリートダムで、相模川の洪水調節、横浜市や横須賀市及び県南地域への上水道、工業用水の供給と共に、発電(揚水発電)機能を持った多目的ダムで、出来たダム湖が津久井湖です。周辺は、津久井湖城山公園として整備され、行

楽シーズンには多くの方が訪れます。

城山ダムは、城山大橋と呼ばれ主要道路である国道413号線が走っていますが、ダムの上が幹線道路に使われている例は全国でも珍しいと言われています。

令和元年10月に襲った台風19号の大雨により、ダムの貯水量が限界に近づいた事からダムの決壊を防ぐ為に、12日夜9時30分頃から未明にかけて初めての緊急放流が行われました。

(塩谷 弘道)

※参考資料

城山町史/城山ダムパンフレット/県HP

編集 後記

この秋は、いくつもの大型台風が猛威を振るい、各地に甚大な被害をもたらしました。相模原市も台風19号により大きな被害に遭遇し、城山ダムの放流や相模川について、メディアで大きく取り上げられたこともあり、今回は川、橋、ダムをメインに編集しました。

みなさまの記事についてのご感想、ご希望をお待ちしております。

宮崎 紀美子



企画/作成：相模原市立城山公民館

城山エコミュージアム委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索



相模原市立城山公民館ホームページ <http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html>